

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005  
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

# 東北復興

Rising up , TOHOKU !

2014年(平成26年)12月16日 火曜日

無料

## 第31号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)12月16日 火曜日

### でもけっしてあきらめてはいけない! 被災地無視の衆院解散総選挙の愚挙にもめげずに、あきらめず頑張ろう! 復興が進んでいない、何とかして欲しいとの被災地の切実な声を無視し、さらには課題山積の状況下での解散・選挙をあきれ果てる

#### いまなぜ解散と選挙?

突然の衆議院解散と選挙突入だった。もう結果は出てしまった。

しかし、結果が出たらそれでいいというのではなく、ほんとうにいいのだろうか。終わったことをいつまでもグズグズ言い続けるのはいけないことなのだろうか。「大儀なき選挙」という言葉だけで片付けていいものだろうか。

政府あるいは安部首相にどんな動機があったのかあれこれ考えてみてもよく分からなかったが、おそらくこの解散と選挙突入に賛成する国民はほぼ皆無であったろう。それでも強行する理由があったのかもしれないが、国民の誰もが望まな

い決断をしてしまったことについて猛省を促したい。このことは、国民のための政治を行うという本来的な意味での政治家の任務の枠を大きく逸脱してしまったことは明らかである。そのことの意味をしっかりと自覚して欲しい。

#### 被災地はどう思っているのか?

一般国民でさえそう思っているのだから、東北震災の被災地と被災された方々はさぞやと思うのである。いたたまれない思い、やりきれない思い、ぶつけようのない怒り、その他身

体中を駆け巡る爆発的な思いにとらわれていることである。その思いの大きさと深さは想像さえできない。ただでさえ復興は進んでいないのである。これから先どうして生活していけばいいのか、不安だらけのなかで必死に自分を鼓舞してこまごま生きてきたところにこの追い討ちである。度重なる被災地軽視の仕

打ちにも耐えてきたが、これで完全に「心の糸」が切れてしまうのではないかと心配である。

ほんとうに頼りない政治だが、それでも頼るしかないこれまでの状況であったのに、このことで、頼れば頼るほど裏切られ、頼って

きた自分のまちがいにあらためて思い至るとき的心情は想像できない。大きく膨らんだ爆発的な感情が被災者自身に向かないことを祈るだけである。その感情は出来る限り外に向けて発散して欲しいと願う。

「再興」などとても無理だとあきらめてしまおう。願う。

#### ますます追い詰められていく

年が明ければいよいよ大震災から四年目を迎える。三年を過ぎた時から、多数の人々の関心事からはずれ、忘れ去られ続けている。四年目という時期はさらにこの流れが加速するであろう。それは阪神淡路大震災が証明している。

忘れっぽいマスメディア、忘れっぽい国民は、次々に新たな話題を追いかけて、もう東北震災のあの悲惨な状況をおぼろげに覚えているのか昔の出来事、「歴史」になつてしまふのかもしれないのだ。

そうした状況下で、被災地と被災された方々は、どうやって生きていくか、どうやって復興していくか、とても心配である。

日々の生活は、震災直後の応急的な復興支援枠をはずすか、はずさないかで大きく変わる。

負債返済と生活維持のためには相変わらず見つけられない。復興は遅々として進まない。もう震災前の状態も回復できないし、ましてや震災当時でも衰退していたのに「再興」などとても無理だとあきらめてしまおう。

#### 福島・宮城・岩手の選挙の受け止め方

福島の被災地、福島第一原発に近い被災地はさらに悲惨である。もう若い人は故郷に戻らない。たとえ戻っても老人世帯だけとなる。

昨年訪問した誰もいないゴーストタウンを思い出す。行ってみたら分かるが、言葉が出ない。被災者ではない筆者でさえ、怒りとも悲しみとも名状しがたい感情にとらわれ立ちすくむ。ましてや被災された方々はどんなお気持ちでおられるのだろうか。

孤独感、孤立感はますます深まるだろう。逃げ道は容易に見つからない。

解散前、地方創生関連法案が出てきた。同時に政府は、地方の人口減少対策や地域活性化に取り組み司令塔として「まち・ひと・しごと創成本部」を立ち上げた。メンバーも決めた。少し本気なのかなと感じ始めた矢先の解散総



石巻日日新聞

選挙であった。そんなことで、効果的な成果は産まないかもしれないが、少くくは役に立つのではないかと、ほんの少し期待していたのに、それも裏切られた。もともとやる気がなかったと言われても仕方がないではないか。

あきらめかけているところを再度期待させて、また裏切るとは最悪である。まさに性悪と言えよう。

被災地も被災された方々も、くれぐれも自暴自棄に陥らないように祈りたい。

福島・宮城・岩手の選挙の受け止め方

最後に、最も被害の大き

### 総選挙でまた遅れ? 復興へ影響懸念 12月実施の動き

「解散よりも優先すべきことがある」「復興を考えたら選挙は反対」一。安倍晋三首相が年内に衆院を解散、総選挙に踏み切るとの見方が強まっていることを、県民は驚きや疑問を感じながら受け止めている。首相外遊中に、にわかに吹き始めた解散風。さまざまな臆測が飛び交う中、被災地の復興や、審議中の重要法案への影響を懸念する声も上がり、有権者は総選挙の大義や争点をつかみかねている。

「消費増税を控えて家計では無駄を無くそうと考えているのに、なぜ解散総選挙で無駄なお金をかけるのか」。二戸市福岡の薬剤師(65)は疑問を呈す。

盛岡市津志田の岩手大工学部4年(21)も「消費税が8%に上がり、負担感ばかり増している。消費税が高い分、福祉や教育が充実する国のように使い道や効果を分かりやすくしてほしい」とまずは政策の実行を求める。

復興を含めた多くの施策の歩みが止まることを心配する声も多い。一関市の団体職員(38)は「選挙に時間を割くより、地域の実情に合わせた支援策や経済政策について議論を深めてほしい」と要請する。

陸前高田市高田町の中仮設住宅に暮らす女性(70)も「政治資金の不正流用などで大事な国会の時間を使っている」と批判。「資材も人材も不足する中、被災地で家を再建しようとしている人に影響が出る。選挙費用を復興に回して」と訴える。

岩手日報 WEBNEWS (2014/11/13)より  
\* 当新聞においてパワーポイント用に配置加工済

岩手日報

### 【衆院選と争点】県民の本気投票で示せ(12月4日)

第47回衆院選が2日、公示され、県内5選挙区には5党16人が立候補した。全国では1191人が立ち、熱い選挙戦を繰り広げている。大義が見えない解散に賛否はあるが、安倍晋三首相の2年間の政権運営を評価する貴重な機会と考えるべきだ。安倍政治に対してしっかりと通信簿をつけるとともに、各党の被災地復興策を見比べる必要がある。

とりわけ本県は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興の途上にある。復興への県民の強い決意と願いを国に示し、古里を取り戻すためにも、棄権せず一票を投じてほしい。

安倍首相は有権者に不人気な消費税増税の延期を打ち出し、争点を「アベノミクス」の継続の是非に絞っている。郵政民営化という単一争点(シングルイシュー)で大勝した小泉純一郎元首相の「郵政解散」が念頭にあろう。

しかし、今回の衆院選はシングルイシューではない。安倍政権で決着していない問題は多数ある。原発再稼働、集団的自衛権、特定秘密保護法、沖縄・普天間飛行場の辺野古移設、中央と地方の格差など、どれ一つ取っても今後の日本にとって重要なものばかりだ。12日間の選挙戦で、与野党がこれらの問題に関して中身のある論戦を繰り広げることを期待する。

本県にとっては、大震災と原発事故からの復興が最大の課題だ。震災から3年8カ月余りが過ぎ、県外では原発事故が話題になることは少なくなっているが、除染や中間貯蔵施設の建設、被災者の生活再建、住宅、賠償、帰還、廃炉など解決しなければならない課題が山積している。風化を防ぎ、復興を確実に進めるために、県民はこれまで以上に声を上げなければならない。候補者と各党には、古里の将来の姿を思い描けるような明確な政策、具体的な取り組み、財源などを訴えることを望む。

県民は候補者の政見、各党の公約を吟味して、必ず投票してほしい。「投票したい候補がいらない」「選挙をして何も変わらない」などの理由で棄権してしまつては、復興に懸ける県民の本気が国に伝わらない。日本一高い投票率が必要だ。

残念ながら、選挙は完全を求めるものではない。眼鏡にかなう「ベスト」な候補者や政党がないから棄権するのはなく、少々不満があっても「ベター」を選択するものなのだ。投票しない理由を羅列するのはなく、福島の復興、未来のために一票を投じてほしい。(芳見 弘一)

福島民報 2014年12月4日 (2014/12/04 09:50 カテゴリー: 論説、ふくしま衆院選)  
\* 当新聞においてパワーポイント用に配置加工済

福島民報

# 第七回 とにかく東北を語る会(勉強会)

## 『中鉢美術館で鉄と日本刀のルーツを考える』

この分野でも真の東北の歴史を再発掘の必要あり  
鉄の朝鮮半島経由伝播説に対する北方伝播説と  
日本刀のルーツは西日本という通説に対しての  
東北にこそありとの説に、参加者一同納得

### 中鉢美術館での勉強会

十一月二十九日、「と  
にかく東北を語る会」の第7  
回目の企画として、宮城県  
大崎市の有備館駅近くにあ  
る「中鉢美術館」を訪問し  
鉄の伝播ルートと日本刀の  
ルーツを考えるとというテー  
マで、中鉢館長さんに約三  
時間たっぷりとお話を聞く  
という勉強会を開催した。

参加者は七名。まことに  
多士済々で、元大学教授、  
歴史、アーティスト、その  
他東北の歴史に特大の関心  
のある方々で、約三時間は  
あつという間に過ぎた。  
参加者からはそれぞれの  
関心ある分野から、非常に  
鋭く活発な質問が多数あり  
結果として、東北の鉄と日

本刀の歴史に深く切り込ん  
だ勉強会となった。

### 鉄の伝播ルート

まず鉄伝播に関してい  
えば、これまでの通説で  
は、鉄文化や鉄製品は朝鮮  
半島を経由して西日本から  
入り、全国に広まって行っ  
たということになっている。  
(掲載した写真の南ルート  
参照)

勉強会では、従来の朝鮮  
半島経由以外に、モンゴル  
から樺太経由での伝播ルー  
トがあることが詳しく説明  
された。(掲載した写真の  
北ルート参照)  
まだすべてが解明された  
わけではないと前置きされ  
つつ、中鉢館長からは、南



舞草刀



被災刀



館長の説明に聞き入る



記念撮影



鉄の伝播ルート図

我が国の鉄文化は、ロシア沿岸(羅粗鍛冶系)と中国及び朝鮮半島  
經由(韓鍛冶系)が考えられています。  
北の鉄文化は、鉄の発祥地ペルシャ・ヒッタイト→アルタイ系のア  
キナクス剣→蝦夷の鐵手刀への関わりが考えられます。

南北の鉄文化の子孫経路(菅原孝幸氏)



東北の3つの刀鍛冶収集団

当時、東北には大きく分けると三つの鍛冶集団があり、その鍛冶達  
は各々の使命を担っていました。時代や支配者によつての移動はあり  
ますが、左記を中心にしていたと考えられます。  
舞草鍛冶：岩手県一関市や平泉周辺を中心とし、安倍氏や東北の都  
府鍛冶の中心的存在であった。  
平泉の需要に応じていた集団で、奥州鍛冶の中心的存在  
であった。  
月山鍛冶：出羽三山や山岳信仰を中心に、諸国を往來した鍛冶集団  
です。室町期には山形県寒河江周辺を拠点にしています。  
玉造鍛冶：宮城県玉造郡周辺を中心とし、その立地条件から、三つ  
の集団の中では早く律令政権下に組み入れられたと思われ  
る鍛冶集団です。

方ルートと北方ルートの鉄  
の成分が異なること、前者  
は銅成分が含まれるが、後  
者にはないこと、たたら製  
鉄の「たたら」は、ユーラ

シア大陸の遊牧民のタター  
ル人や、樺太の西にある間  
宮海峡を「タタール海峡」  
というが、その「タタール」  
由来のものではないかとい  
う見方を示された。

さらには東北に残る謎の  
神と言われるアラハバキ神  
がヒッタイト起源であるこ  
とも北方伝播を裏付けるも  
のだという。

### 日本刀のルーツ

また、日本刀も朝鮮半島  
経由で入ってきた「直刀」  
がルーツであり、その後、  
湾曲した「日本刀」に発展  
し、全国に広まっていった  
というのがこれまでの通説  
だった。

しかし館長によれば、「直  
刀」を湾曲させて「日本刀」  
にすることは出来ない、そ  
れに「直刀」の鏢(つば)  
は柄の方から挿入するが、  
「日本刀」は切っ先から挿

入するというまったく異な  
る製法であることから、「直  
刀」と「日本刀」は別ルー  
ツである、よつて「日本  
刀」は西日本ルーツではな  
い、また「日本刀」に先立  
ち、蔵手刀等の湾曲した刀  
の系譜が東北にあり、結論  
として、日本刀のルーツは  
東北であると説明された。

また日本刀の源流に関す  
る論争は、大正時代からあ  
つたが、平成9年の東京国  
立博物館の見解によつて終  
止符が打たれ、この日本刀  
の系図が確定したという。

### 東北の刀鍛冶集団

かつて東北には三つの刀  
鍛冶集団があり、それぞれ  
の使命を担っていた。

ひとつは、「舞草鍛冶」で、  
岩手県の一関市や平泉周辺  
を中心にして、安倍氏や平  
泉の需要に応じていた集団  
であり、奥州鍛冶の中心的

な存在であった。  
二つ目は、「月山鍛冶」。  
出羽三山や山岳信仰を中心  
にして、諸国を往來した鍛  
冶集団であった。

三つ目は、「玉造鍛冶」。  
宮城県玉造郡周辺を中心に  
していた。その立地条件か  
ら、三つの集団の中では最  
も早く律令政権下に組み入  
れられたらしい。

### 浮囚鍛冶と日本刀

入り口脇にある「鍛冶神  
像掛図」には、鍛冶の下働  
きをしている鬼が描かれて  
いる。この鬼とは、かつて  
この地域一体で働いていた  
鍛冶たちであり、故郷を離  
れることを余儀なくされ、  
「浮囚(ふしゅう)」と蔑  
まれた人たちである。人並  
みの扱いをされなかった鍛  
冶たちの境遇に、「東北人」  
として居たたまれない気持  
ちになる。

しかし、神代から鎌倉時  
代末期までの歴代ベスト  
四十二工が記されている刀  
剣古書の『観智院本』(重  
要文化財)には、東北鍛冶  
集団から八名が選ばれてい  
る。しかも、この八名にと  
どまらず、奥州鍛冶ではな  
いかと思われる刀工、元々  
は奥州鍛冶と思われる刀工、  
さらには奥州鍛冶に縁があ  
ると思われる刀工まで含め  
ると四十二工中、軽く半数  
を超えるという。

なかでも、名刀というこ  
とで誰でもその名を聞いた  
ことがある「備前長船」の  
備前国(岡山県)。このこ  
草創期の「古備前」にはま  
ちがいなく奥州鍛冶の子孫  
がいたという。

全国各地で日本刀の名刀  
を残したこと、及び、古代  
から江戸時代まで、武士の  
命そのものともいわれ、精  
神文化の象徴であった日本  
刀のルーツが東北にあった

今回の取材中、中鉢氏が  
特に力説されていたのは、  
日本刀は武器ではなく、日  
本人の精神文化の象徴であ  
り、邪気を払うための守り  
刀でもあり、余程のことが  
ない限り、武器として使用  
しない。抜く時は最終的な  
手段として「伝家の宝刀」  
としてであると。

また日本刀は売買対象と  
してはならない。日本刀の  
高い精神性は、日本刀を作  
り続けた奥州鍛冶の高い精  
神性の反映である。した  
がって、互いの信頼関係で  
託し託される事だ。

そうした託し託されると  
いう関係を経て、東北地震  
災での「被災刀」が多数陳  
列されていた。



海産物なべ



地酒

昨年四月末、ゴールデンウィーク初日に第一回目を開催して以降、先月十五日に記念すべき十回目を迎えることができました。  
これもひとえに、会場の焚火家さんの皆さま、ご参加いただいたみなさま、また少量でありながらも素材供給をこころよく引き受けていただいた三陸の水産業者と地酒メーカーの皆さま

のおかげと、紙面をお借りして感謝申し上げます。  
こうしたイベント開催も未経験で、ぶっつけ本番で臨みましたが、おかげさまで何とか継続できました。  
また、東京に居ながら、三陸の海産物を食べ、三陸の地酒を飲むだけで支援になるのかという声もありました。しかし大震災から三年八カ月経過して周囲を見

回すと、震災直後にたくさんあった支援イベントも大分少なくなりました。  
そうしたなか、現地直接支援ではなく、日常生活のなかでの支援という考え方で細々とでも継続することの大事さをかみしめる状況となっております。  
今後も極力継続してまいりますのでよろしくお願いいたします。

**記念すべき第10回を迎えた  
三陸酒海鮮会・渋谷開催  
(11/15)**  
次回は新年会兼ね 1/17 開催予定



集合写真



郷土料理愛好家  
松本由美子氏

## 水産業再興のための 料理レシピ紹介

### 第三回目

## 【ニシン漬け】



10日ほど経ってニシン漬け完成

### 材料と作り方

【材料】

大根(2~3日干す)、キャベツ、人参、生姜、鷹のツメ、合計 10キロ  
身欠きニシン 500g、麴 1袋 + 砂糖 600g、酢 500g~600g + 焼酎120cc

【作り方】

- ① キャベツ、大根は短冊に切ります
- ② 人参、生姜は千切りにします。
- ③ 全ての野菜を一緒にし2.2%の塩で一晩漬けておきます。(野菜の重さを計ると塩加減が失敗しません)
- ④ 麴をぬるま湯でふやかしておきます。砂糖も一緒に入れます。(トロリとなります)
- ⑤ 身欠きニシンは、4~5時間ほど水に入れ糠あるいはお米のとぎ汁に漬けてもどします。その後3cmぐらいにカットし、もどし身欠きニシンに焼酎50ccを入れナイロン袋を真空にして一晩おきます。(生臭みをとります)
- ⑥ 翌日、漬けておいた野菜の水を半分捨てて後の水は残します。野菜と残った汁のタルの中へ、一晩焼酎と合わせた身欠きニシン、酢、焼酎120ccとふやかした麴・砂糖を投入して、よく混ぜておきます。最後に鷹のツメを軽く入れます。重しは5キロのせます。
- ⑦ 2~3日は室内に置き、後は寒い戸外に置きます。時々混ぜ合わせるとニシンの旨味が回りやすいかもしれません。酢を入れることで早くなじみます。5日ぐらいからでも食べられます。10日ぐらいで更に美味しくなって完成です。

### 作るポイントとアドバイス

- ・ **ポイント**  
麴を柔らかく蒸らすことと、砂糖を入れることが発酵を早めて身欠きニシンの旨味を引き出すことができるのだと思います。ひと手間かけて、美味しさを楽しんでみてはいかがでしょうか。身欠きニシンの脂の旨味は野菜とよくあいます。発酵食品の麴の持つ力は旨味を遺憾なく発揮して素晴らしいですね。
- ・ **ニシン漬け**  
以前は、ニシン漬けの作り方は難しくてニシンの旨味が引き出せないまま野菜に酸味が入ってしまうという結果になっていました。納得出来る仕上がりが出来ずにおりましたが偶然にも青森県の知人のお母様から、良い方法を教えていただく機会を得ました。この方法にしたところ格段の味の向上と周囲の評判を得ることが出来ましたのでご紹介させていただきます。



材料が揃って漬け込む前



ふやかした麴に砂糖を投入



戻した身欠きニシンをカット

# 宮城の「地ワイン」、復活に向けて始動!

## 「地ワイン」が0の宮城県

東北が全国有数の酒処であることは論を俟たない。仙台国税局が「仙台国税局管内酒蔵マップ」として東北六県の酒蔵が一覧できるマップを作成しているが、それを見ると東北六県で合わせて実に251(青森県21、岩手県24、宮城県34、秋田県43、山形県55、福島県74)もの酒蔵がある。私

以外にも様々な酒類の醸造所があるが、その中に「地ワイン」もある。地ワインを造っている醸造所(ワイナリー)は六県で29(青森県4、岩手県5、宮城県0、秋田県4、山形県13、福島県3)と、地酒には敵わないが、地ビールよりは多い。とりわけ山形県は「果樹王国」を名乗るだけあって、地ワインの醸造所の多さが目を引く。山形県のワイナリーの多さの一方で、宮城県の「0」も嫌でも目を引く。

## 震災で消えたワイナリー

実は、宮城県内にもかつてワイナリーがあった。宮城県沿岸南部の山元町にあった「桔梗長兵衛商店」がそうである。明治35年の創業で、大正時代始めに造り始めた「ぶどう液」は日本におけるグレージュジュースの先駆けであったそうである。

この桔梗長兵衛商店が造り、「桔梗長兵衛ワイナリー」の銘柄で出荷されていたワイナリーが、宮城県内唯一の地ワインであったのである。

ところが、東日本大震災の大津波によってワイナリーは建物やぶどう畑、醸造機材に至るまで全て流されてしまった。想像を絶するような壊滅的な被害を受け、桔梗長兵衛商店はその再建を断念せざるを得なかったとのことで、こうした経緯で宮城県内からワイナリーがなくなってしまったのである。

ちなみに、宮城県のぶどうの生産量は震災前の2009年の数字で227トンである。これは47都道府県の中で実に44位という少なさである。ぶどう畑などどこにもなさそうに思える東京都(378トン、41位)よりも少ないのである。これに対して、東北の他県は軒並み上位にいる。山形県が20、100トンで全国第3位なのを始め、青森県が8位、岩手県が11位、福島県が12位、秋田県が18位と全国的に見てもぶどうの生産量が多いのこの宮城県の生産量の少なさは極めて対照的である。

それほど大きく気候や土壌が異なるわけではないだろうから、宮城県におけるこのぶどう生産の少なさには何か別の理由があったのだろう。ぶどう栽培に取り組もうとする人が東北の他県よりも少なかったのかもしれない。そのような中で、文字通り孤軍奮闘してきたのが桔梗長兵衛商店だったわけである。震災の津波で

桔梗長兵衛商店のあった山元町や隣接する巨理町のぶどう畑は壊滅的な被害を受けたので、現在の生産量は恐らく震災前よりもさらに大きく減っているものと思われる。

## 宮城の地ワイン、秋保で復活!

こうした状況の中、先日とある会合で、仙台市の秋保でワイナリーづくりを目標としている毛利親房さんとご一緒させていただいた。

毛利さんは元は仙台市内の建築関係の会社に勤めていたそうだが、そこを退職し、現在、仙台秋保醸造所という会社を立ち上げ、「秋保ワイナリー」(仮称)創設に向けて準備を進めているそうである。

計画では、来年2015年4月にワイナリー建設に着手、9月に竣工、10月に試験醸造を開始し、12月にワイナリーオープンを予定している。さらに、再来年2016年2月にはワイン販売を開始し、10月には自家栽培のぶどうによるワイ

ンの生産を開始するとのことである。ワイナリーには醸造所や熟成庫を始め、売店、試飲コーナー、カフェ、セミナールームなどが造られる予定とのこと、人が集い、交流する施設となりそうである。

再来年10月の自家栽培ぶどうによるワイン生産開始に向けての準備も既に始まっている。今年の4月に

ワイナリー用のぶどう6品種1,200本を敷地内に植樹したそうである。ぶどうが収穫できるまでに最低でも2年かかるのだそうである。だから、今回植えたぶどうが収穫できるまで、来年いっぱいには宮城県内外からぶどうやりんごを仕入れてワイナリーを醸造するが、首尾よくいけば再来年には今回植えたぶどうが実って収穫され、それが醸造されて晴れて自家栽培ぶどうによる「地ワイン」として出荷される運びとなるわけである。

## 秋保ワイナリーが目指すもの

本紙28号で東北の地元原料を使った地ビールについて取り上げたが、そこでも書いた通りそうした地ビールは、地ビール全体の中では少数派で、一般的に地ビールはその原材料のほとんどを海外からの輸入に頼っている。これとは対照的に、地ワインは通常、原料を左右するぶどうづくり

ら取り組まれることが多い。つまり、ワインはその成り立ちから地域の農業と密接な関わりを持っていることが多いのである。農業だけでは足りない。その流通を通して商業とも関わりを持ち、地ワインということであれば観光産業とも深い関わりを持つことになる。毛利さんが秋保という場所を選んだのも、ぶどう畑として適地だったというだけではない、その辺りを十分に汲み取ったことだと思われる。

毛利さんは「ワインには力があります」として、3つの力を挙げる。「人と人」と地域、地域と地域をつなぐ力、「農業、商業、観光など多様な産業を活性化し、はぐくむ力」、「食、工芸、音楽など多様な文化と融和し、引き立てる力」である。そして、東日本大震災からの復興や、高齢化や農業の後継者不足など東北が抱える様々な問題に対して、ワインが持つ力を以て解決につなげていきたいというのが毛利さんの思いであった。

具体的には秋保ワイナリーでは、そうした観点から被災地域の果樹を利用したワイナリー生産と産地のPR、沿岸部の漁業関係者との連携による販路拡大、工芸品とのコラボによるワイングッズの企画開発を進める一方、ワインに関する勉強会や研修会を開催するなどしてワイン文化の普及にも努めるとのことである。

## 山形県に学ぶワインイベントによる地域交流

仙台市内でビールのイベントと言え6月と9月の2回行われるオクトーバーフェストに、今年はベルギービールウィークエンドも加わった。これに対して、ワインに関するイベントについてはあまり聞かないと思っていたら、今年仙台市内の酒店が主催して初めて「仙台ワインフェスト」が開催されたそうである。輸入ワイン100種が飲めるというイベントだったそうであるが、ゆくゆくは東北の地ワインが一堂に会するイベントなどもここ仙台で開催されたら面白そうである。

「ワイン先進県」の山形県では、朝日町で毎年9月に「朝日町ワインまつり」が開催され、南陽市でも8月末に「ワインフェスティバル in 南陽」が開催される他、今年7月には上山市でも「やまがたワインパル2014 in かみのやま温泉」が初開催された。高島ワイナリーやタケダワイナリー、月山ワイナリーのように秋の収穫祭やワインまつり、新酒フェスティバルといったイベントを開催するワイナリーもあり、山形県内におけるワインイベントは年間でもかなりの数に上る。県内各地で開催されるこうしたワインのイベントが人の集いや交流を促進させている効果には大きいものが

## 手を携えてワインによる地域振興を

毛利さんによると、宮城県内でのワイン醸造を目指す動きは、毛利さんの仙台秋保醸造所以外にも5、6件出てきているそうである。すごいなと思ったのは、毛利さんはそうしたことからワイナリー醸造を始める人を醸造所で受け入れて研修などを行いたいという意向を持っているということである。自分のところだけができればそれでよしというのではなく、ライバルとなるような存在に「塩」を送るようなことはほしくないというのでもなく、そうした後進の人たちを、一緒にワインで地域を盛り上げる存在として

あると思われる。また、昨年からは年1回、山形県内の全ワイナリーが一堂に会するワインフェスティバル「山形ヴァンダジエ」を東京都内で開催し、こちらも好評を博しているそうである。山形のワインを首都圏で知ってもらい、地域ブランドとして確立させたいという意味でも興味ある取り組みである。

何年後、ワイナリーが0だった宮城県は、東北有数のワイン県となっているかもしれない。宮城県内での地元のぶどうを使ったいろいろなワインが飲めるようになるのを楽しみに待ちたい。

て認めて、その取り組みを支援するという、その姿勢に感銘を受けた。

毛利さんは初め、宮城県で唯一の地ワインがあった山元町でのワイナリー立ち上げを考えたそうである。諸事情で残念ながらそれは実現しなかったが、そうしたエピソードでも分かる通り、毛利さんには何とか宮城県のワインを復活させたい、そしてワインを通して地域振興を図りたいという強い思いがあるわけである。

イベントについても、定禅寺ワイナリーフェスティバル(仮称)との名称で、仙台の街中のイベントを開催する他、醸造所のある秋保地域でも大規模なワインフェスティバルを開催したり、地域の温泉ホテルや飲食店と連携したイベントを実施したりする構想もあるそうである。

何年後、ワイナリーが0だった宮城県は、東北有数のワイン県となっているかもしれない。宮城県内での地元のぶどうを使ったいろいろなワインが飲めるようになるのを楽しみに待ちたい。

## 執筆者紹介

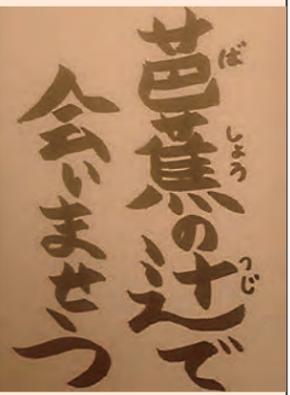
大友浩平 (おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブローグ」  
http://blog.livedoor.jp/anagmasi/



Facebook  
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



連載  
むかしばなし



第十九話  
崖下の黒き  
長城

泉三郎忠衡の持つ弓は、その主の頭の先から、腰ぐらまでの長さで、どうやら蝦夷弓のようである。

「この少年、狩りの名人だという。この活躍の場で弓矢もねえば、本領が出せまい。」

泰衡の、名人という紹介に肩をすくめながら、祝魚が応えた。

「俺の時代のマタギは、弓など使わねえ。かといって鉄砲を買う金すらねえすけ、内緒では使ってたども。」

忠衡がむきになる。「てっば？何の事だ。つべよるな！」



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

こべ言わず、一矢放つてみれ。腕次第では、この天狗の弓、譲らぬでもないべえ。」

祝魚に、弓と矢筒が渡された。弓に矢を番え、狙う物を遠目に探そうとする。忠衡が懐から何かを出し、宙へ放り、叫んだ。

「ほい、撃てつか！」

祝魚の放つた矢が飛行するそれを貫き、一塊になって回転しながら地面に落ちた。大きな秋茜の胸部に矢が突き立っている。ぴくりと弛緩すると白い折り紙のような姿が変わった。

「俺の式神で今の時節では一番の速さ自慢だに。やりよるな！」

崖の下は、もう直ちに霧が立ち込め、その下に流れているはずの広瀬川の姿も影すら認められない。

喜善は恐怖を感じた。一体、自分らのような、昭和という時代の軟弱の小市民にどこまで無謀な真似が許されるのだろうか？神に、鬼に、天狗に対して。

もともと身体に自信がないのに断崖絶壁など命綱も無しで降りられる訳がない、と今更ながら思うのだが、まるで下から誰かが支えて

いるか、そもそも重力すらないかのように、足を踏み外しても落ちる気がしないのであった。霧はますます深く、すぐ下を行くヤエト、上から来る純三の姿さえ霞んでしまう。

筒状に丸みを帯び、しかもその表面には鱗のような模様がある。純三が訊く。「ば、芭蕉さん、これは。」

応えて口を開いたのは、盲目のヤエトだった。「呼吸している・・・広瀬の川は、蛇に化身した。」

一同、身動きもできなかつた。途轍もなく巨大な一匹の蛇が、どこまでもどこまでも長く長く横たわっているのだ・・・

「こ、これを越えて行かねばならんのか。」

喜善が首を横に振る。「無茶です。川を越えるのと同じくらい、またはそれ以上に、無茶です。」

純三の顔はすっかり青い。賢治が後ろへ走って戻り、大蛇の背中越しに「対岸」を見る。霧はまだ覆っているが、うっすらと空中に光が見えるのだった。

「あれはちようど・・・青葉城ができる辺りかも知れない。」

川の流れる音が、しないのだ。崖の下は、すぐ広瀬川のはずなのだが。

トヨ、喜善、純三と、次々に崖を降りきる。そこは平坦な白い砂地で、風が徐々に吹いてきて目を覆っていた霧を取り除いていくのだが、やはり川はどこにも見えない。代わりに、何か黒い壁のようなものが左から右まで無限に彼らの行く手を遮るように横たわっているのがわかった。近づいてよく見ると、壁と思つたものは地面に垂直ではなく

筒状に丸みを帯び、しかもその表面には鱗のような模様がある。純三が訊く。「ば、芭蕉さん、これは。」

太郎兼任のそれになつて、鳥兔森には、大河次郎：「この身体、本来の主が幽閉されておる。返還の時が迫つておるな。」

「西木戸様はどうなさるつもりですか。代わりに鳥兔森へお籠りになる訳では。」

国衡が苦笑を漏らす。「魂は、あるべき肉体へ還るべし。我が本来の首は既に頼朝の元であろう。んだば最も敵将の首に近きは、他ならぬ我なり。」

視界の開く笹谷峠へ出ると、国衡は西に消え入ろうとする陽の光を見つめて「我は西に落暉を追つて去り、東に朝暉と共に再び来たりぬ・千歳山へ、参る。」

火にくべられた鉄鍋には芋を主体に煮た汁物があり、木の櫃から盛られた稗などの粥とともに食べるのだった。

「おいしい。」

「この時代にも何か建つていゝるんでしようか・・・大天狗の城、という事ですか。」

「越えましょう。とにかくこの大蛇を越えましょう。」

蔵王への道へ入った国衡の騎馬隊は遠刈田から笹谷の峠を目指す途上、宵闇に視界を覆われた。雲が天に満ち、月明かりもないのだ。

「峠越えは急ぎましょう。」

「ああ、鳥兔森は背後にあるか。」

国衡は、自ら発した声か自分のものではなく、大河

若が入っている輪を見ると、兵士は男だけではなく、女武者が混じっているのわかる。皆仲良く、笑い合っている。戦場のひとときの楽しみを分かち合っていた。

「四郎様、平泉はもう片付けに入っているのですか。」

遅い性格の女武者が、熱い汁を啜り頬を桃色に上気させながら高衡に尋ねた。「おそろく・・・御館も向かわれている。」

「名取川を越えられたら本当の最期、ですよ。」

「その前に天狗様が、一丁大仕掛けを咬まして下さる。」

男の武者が豪快に口を挟む。天狗・高衡の兄、忠衡の事か。こんな、庶民の層にまで渾名されているのか。

「だが、伊達様には生き延びて頂きたいものだ・・・本吉様の、たった一人のご親類なのでしよう。」

若は耳を疑った。「えっ・・・ご兄弟、四人以上おられるのでは。」

思わず、会話を割り込んでしまふが、特に同じ鍋を囲む同士、排他の気風はない。

「あつ、按配よくねべか」女武者が少し慌てたようだが、高衡は笑う。

「さすけねえ。若どの、我ら藤原の兄弟のうち、父・秀衡の末の子は、天狗様こと、泉三郎忠衡のみです。」

あまりの驚きで、若は汁物をこぼしそうになる。「どういふ事なですか。」

「父はなかなか子に恵まれんぞな。太郎国衡は出羽から、泰衡は伊達、その従兄弟の某は本吉から、それぞれ養子にもられたのです。それで父がここ名取熊野に祈願してようやく授かつたのが、忠衡という訳です。」

何という事だろうか。「ただ、父にはお告げがあつた由。忠衡は秀衡の子であると同時に、大天狗綾糟と、その不幸な妻の念願の子でもある、と。」

「大天狗・綾糟」

鬼、天狗は決して民間の空想の産物ではなく、政治歴史に大きく関わっている。若は大きく夜の空気を吸い込み、呼吸を整えた。

「これは大天狗様かどなたかの、巧妙な光のトリックですな。本当は広瀬川の流れるのに、私どもの心には大蛇に見える何らかの仕掛けなので。」

宮澤賢治が黒い鱗の壁を見上げ、両腕を組みながら独り言のように言った。「と、いうと、催眠術が何かという事ですか。この大蛇が暴れだしても、実際の危険はないのだと考えて・・・」

今純三が質す。

「私は一人のサイエンティストです。科学で説明のつかぬ現象はないものと信じたいです。」

サーカスの老人、壇憲家が蛇の巨大な鱗のひとつに足を掛け、その胴体を登り始める。

「だ、壇さん・・・！」

「行けるがな。わしは本当は、川を渡っている事になるんだかのう。」

強力な指の力でぐいぐいと登って行く。しかし、ここで蛇が動き出したら、どうなるか・・・

\*

「天狗の弓」を手にした祝魚は、夕焼けに染まる草原の中の蒸気機関車の影目指して、一目散に走つた。「あつまたぎ小僧が戻つたぞ。」

乗客の多くは客車の外の所々で炊いた火を囲んで過ごしている。

「おう、皆、ちゃんと食つてるか？」

祝魚は声をかけていく。「まだ帰れねえのか。」

「もう限界です。」

「どこか逃げた方がいいんじゃないのか。」

乗客らが口々に、不平や愚痴をぶつけてくる。「まだ一日目ではねえか。」

坊様方は目的の半分は制覇したと。軍団が押し寄せんなあ、明日だ。明日一日ありやあ、何とかなる。」

祝魚は機を飛ばして廻つた。そうとも・・・明日には昭和三年に帰つて、仙台の小田原遊廓へ殴りこんでいかねばならないのだ。

「次回予告」

高衡の語りは大天狗の正体へと迫る。決戦前夜なのに緊張感なさすぎではないか！一方、広瀬川崖下では怪獣大戦争が！？！

# シリーズ 遠野の自然

## 「遠野の初秋」

### 遠野 1000 景より



真白きお六

**いよいよ冬到来**  
12月に入り、いよいよ遠野に冬到来となった。六角牛山(ろっこうしさん)にも雪が積もり、冬景色となった。その姿はまさ

しく牛の背に雪が積もったように見える。また早池峰山頂も雪で覆われている。しかし、まだ山頂近辺だけであり、ふもとはまだ積もっていない。里にはまだ雪はないが、近隣の山を見れば確実に冬に入ったことを告げている。遠野の人々は本格的に冬支度にとりかかる。

### それでも「色」はある

真冬になれば、白一色の日が増えるが、初冬ともいえる今は、まだ色がある。最期のいるどりである。紅葉を背景にしたお社。常緑樹と黄色く紅葉した樹木と空の青とお社の赤がくっきりしたコントラストを



晩秋のお六

**繰り返す季節**  
こうした季節の繰り返しをこれまでに何度繰り返したことであろう。遙か昔から、そしてこれからも未来

を見せている。まことに鮮やかである。そこにももうすぐ本格的な冬が近づいていることを感じさせるとともに、白一色になる前の最後のいろいろが、生命あるものの鮮やかな燃焼を見せている。あるいは、雨上がりのウメモドキの深紅が鮮烈である。雪が積もったのでそろそろヒヨドリやツグミが食べに来る頃だという。人間だけでなく、動物たちも冬支度を始めるのである。

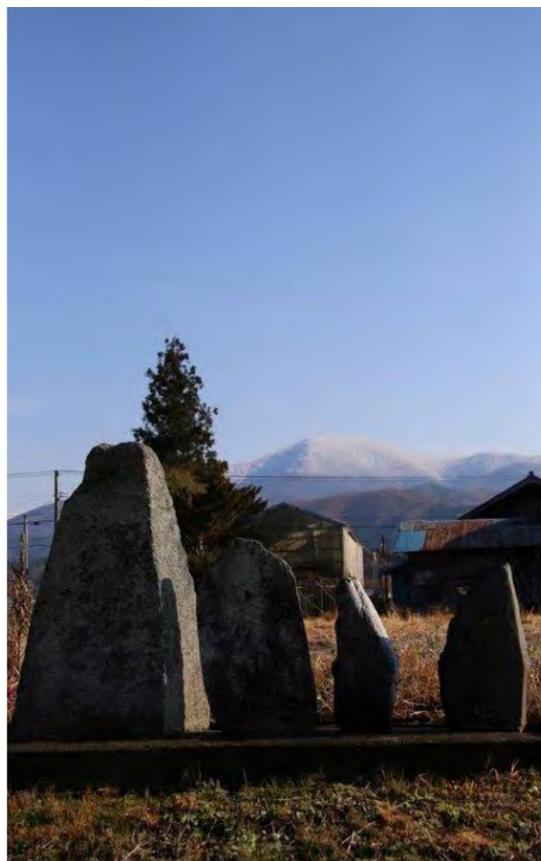
### 新たな伝統

一方で、「SL銀河」のような新しき伝統もある。寒気のなか、暗闇に浮かぶ「SL銀河」は鮮やかで妖しい光に包まれている。突如、宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」が遠野に出現し観がある。

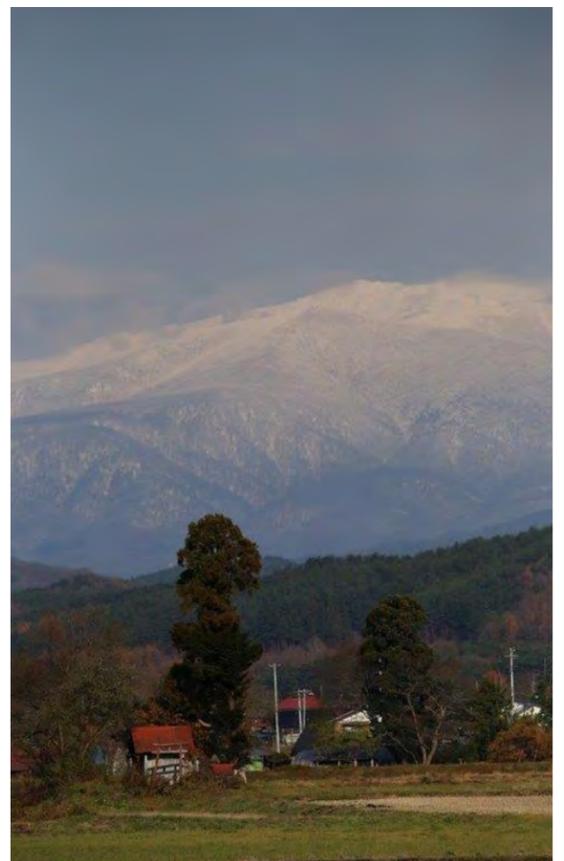
永劫に続くのである。そうしたことを教えてくれるのが、「六角牛山と石塔」の写真である。昔の遠野の人々も同じ景色を見ていたのだ。そしてこれからも同じ景色を見続ける。そうした連続性、継続性が、歴史、伝統である。石塔から六角牛山が望めるその地点に歴史と伝統がある。



赤青黄緑



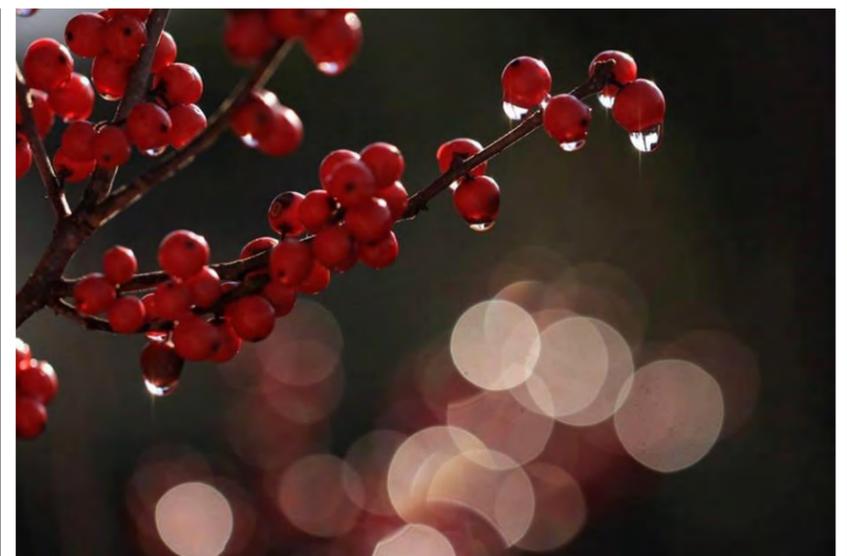
六角牛山と石塔



早池峰山



SL銀河ナイトクルーズ

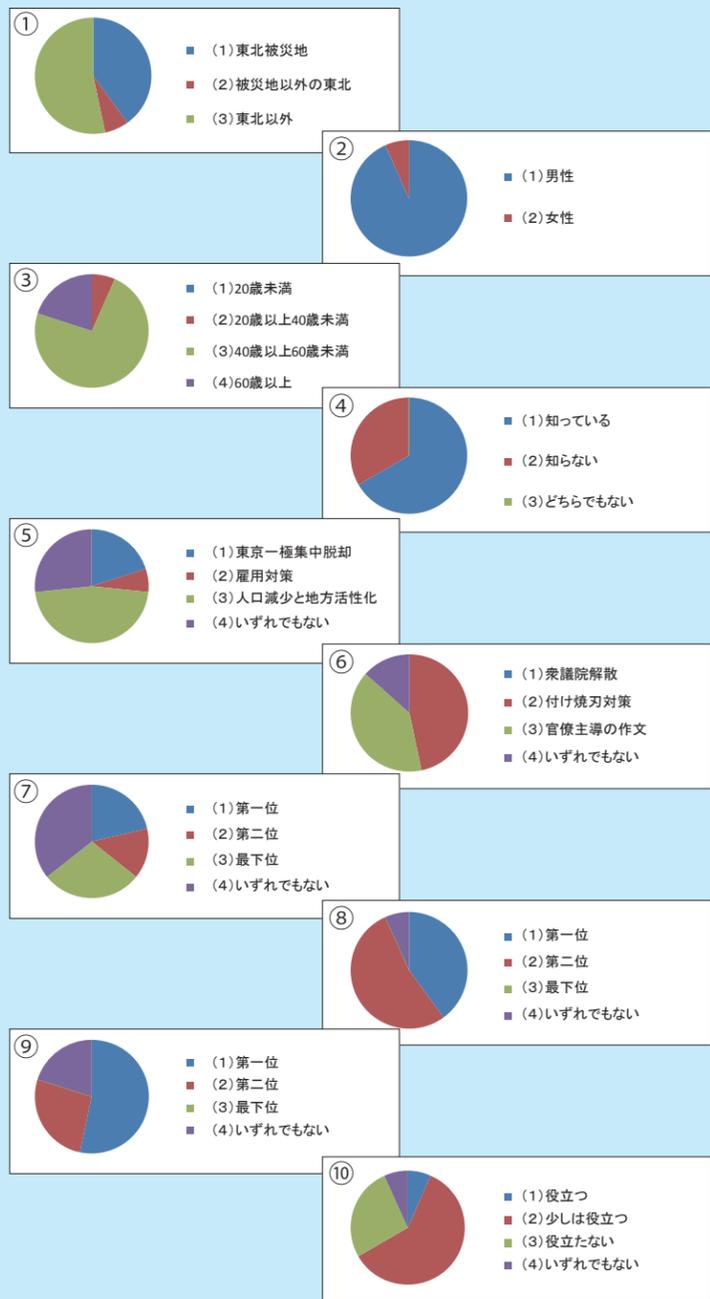


雨上がりのウメモドキ

## 第30号 ネットアンケート集計結果

### 【地方創成戦略と東北復興】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1)東北被災地	6
	(2)被災地以外の東北	1
②	性別	
	(1)男性	14
	(2)女性	1
③	年齢	
	(1)20歳未満	0
	(2)20歳以上40歳未満	1
	(3)40歳以上60歳未満	11
④	地方創成戦略を知っているか?	
	(1)知っている	10
	(2)知らない	5
	(3)どちらでもない	0
⑤	東北復興に役立つとしたらどこか?	
	(1)東京一極集中脱却	3
	(2)雇用対策	1
	(3)人口減少と地方活性化	7
⑥	あまり期待できないとしたらその理由	
	(1)衆議院解散	0
	(2)付け焼刃対策	7
	(3)官僚主導の作文	6
⑦	東京一極集中脱却は優先順位何位?	
	(1)第一位	3
	(2)第二位	2
	(3)最下位	4
⑧	雇用対策は優先順位何位?	
	(1)第一位	6
	(2)第二位	8
	(3)最下位	0
⑨	人口減少と地方活性化対策は優先順位何位?	
	(1)第一位	8
	(2)第二位	4
	(3)最下位	0
⑩	地方創成戦略は東北復興に貢献するか?	
	(1)役立つ	1
	(2)少しは役立つ	9
	(3)役立たない	4
	(4)いずれでもない	1



今回は【地方創成戦略と東北復興】でした。政府もようやく地方に関心を向けてきたかと喜んだのも束の間、急遽の解散で法案が通過するかどうかが心配しました。廃案となつたらこのアンケートそのものが不成立となるからです。でも何とか成立しほつとしました。回答者は十五名。

「地方創成戦略を知っているか?」は「知っている」が多いのは当然ですが、「知らない」という回答が1/3もあつたのに驚きました。

「東北復興に役立つとしたらどこか?」は「人口減少と地方活性化」が約46.7%、「東京一極集中脱却」は約20%、「雇用対策」は約6.7%でした。「あまり期待できないとしたらその理由」は「付け焼刃対策」が約46.7%、「官僚主導の作文」が40%。「東京一極集中脱却」は優先順位何位?」は「最下位」が約26.7%、「第一位」が20%でしたが、最も多かったのが「いずれでもない」でした。「雇用対策は優先順位何位?」は「第二位」が約53.3%、「第一位」が40%。「人口減少と地方活性化対策は優先順位何位?」は「第一位」が約53.3%、「第二位」が約26.7%でした。「人口減少と地方活性化」に期待する結果となりました。最後に「地方創成戦略は東北復興に貢献するか?」は「少しは役立つ」は60%、「役立たない」は約26.7%でした。

### 編集後記

突然の衆議院解散と選挙突入だつた。国民の大半が「なぜいま?」という気持ちになつたことだろう。マスメディアが報じる理由もそんなりと納得がいかない。それで、自分なりにほんとうのところはどんな動機だったのかとあれこれ探ってみようとしたが、皆目検討もつかない。

そしてこの新聞が発行された日にはその結果が出てくる。どんな結果であろうか? 受け入れるしかない。それが決まりだからである。とはいえ、何かしつくり来ないもののお腹のなかにわだかまつている。

これらのことは、政治というものが国民にとつてまつた分らないものになつてしまつたということなのだろうか。以前もよく分からなかった部分があつたが、今回の選挙はそうしたものは異なる。

アベノミクスに関する評価が今般の最大の争点だと言われてきたが、それ以前に、この選挙突入の動機が優先だったのではないだろうか。

今後、こうした国民からすつかり遊離した政治的な施策が行われるとしたらとてもいたたまれない。国民主権などどこかに飛んでいつてしまふ。選挙が終わつたからもう詮索はいらないと思ふ。訳にはいかないと思ふ。

### 「東北を世界に!」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

### 「東北を世界に!」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先  
(郵送) 〒207-0005  
東京都東大和市高木3-315-1  
ホームタウン宮前2-2  
電子タブloid新聞【東北復興】宛  
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています